



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities

会 報 第129号

一般社団法人 日本LD学会 事務局（業務委託先）

〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター（株）国際文献社

URL <https://www.jald.or.jp>

- ・巻頭言：ギフテッドの子どもの学びも保障するインクルーシブな学級
- ・文部科学省令和6年度予算の概要
- ・厚生労働省令和6年度予算の概要
- ・こども家庭庁令和6年度予算の概要
- ・〈連続講座1〉第8回 家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクト
- ・〈連続講座2〉第8回 GIGA スクール時代における特別支援教育
- ・委員会リレー企画 大会等支援委員会
- ・PATIO ～実践の最前線～
- ・事務局からのお知らせ



ギフテッドの子どもの学びも保障するインクルーシブな学級

高知大学

是 永 かな子

2024年4月25日、オンラインでスウェーデンの小学校と日本の小学校の実践交流を行った (<https://sites.google.com/g.kochinet.ed.jp/kochiuniv-sne2024jld?usp=sharing>)。

まずスウェーデンの小学校2年生の算数の授業を参観した。授業の前半は集団の学びの時間であった。図形、立体の定義を考えるために、図形の要素（角度、辺）、図形（二等辺三角形、正方形）、立体（五角錐、立方体）などが提示されていた。教員は子どもの実態に基づいて指名し、子どもはそれぞれ難易度の異なる課題を説明していた。ギフテッド傾向の子どもは立体の説明に挑戦していた。支援が必要な子どももギフテッド傾向の子どもと一緒に学ぶ学級・授業を見ることができた。そして授業の後半は個人の学びの時間となり、それぞれの子どもが異なる難易度の問題を解

く時間になった。一緒に参観した高知大学教育学部附属小学校の元教諭の近藤修史先生は「日本の当たり前を問い直す」ことが必要と言われていた。

その後は高知大学教育学部附属小学校2年生の算数の授業（掛け算の導入）の様子を見ていただいた。スウェーデンのクリスティーナ・メッレル（Christina Möller）先生は「子どもがきちんと椅子に座っているのがすごい」と言われていた。

2024年度の日本LD学会第33回大会 (<https://conference.wdc-jp.com/jald/2024/>) は四国共同実行委員会によって着々と準備が進んでいる。今後も実践交流を継続し、大会当日は大会企画シンポジウム「学級経営」および「学校経営」に関する国際シンポジウム（国際委員会との連携企画）として、直接みなさんと会場で意見交流できることを楽しみにしている。

